平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクトマネジメント論(Project Management)	授業コード	C166451
担当教員名	中山　直樹		
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	指定席制□		
受講心得	遅刻・欠席をしないように心がけてください。 □		
教科書			
参考文献及び指定図書	「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOKガイド)第4版」(プロジェクトマネジメント協会)□		
関連科目	経営学入門、情報メディアとビジネス、eビジネスマーケティング論、インターネット広告論、eビジネス経営論　□		

授業の目的	この科目の目的は、ITを活用したビジネスプロジェクトを立ち上げるにあたり、プロジェクトマネージャーとして各要素を適切に管理・運用するための知識や技術を習得することにあります。ビジネスの現場では、他に対し優位に立つために、市場と顧客、製品とサービス、提供方式をうまく位置づけ、アライアンスを適切に運用することが必要となります。具体的には、予算の計画・管理、スケジュール管理、リスクや契約の管理、外部関係者との交渉、プロジェクト管理プロセス等について学習します。 □
授業の概要	システム開発プロジェクトやIT系プロジェクト(ゲームソフト・組込みソフト作成)に必要なプロジェクトマネジメントの技術知識全般を、体系的に理解する。 また、いくつかの身近なプロジェクトを例に、プロジェクト計画における目標設定、範囲の選定、品質・コスト・納期の計画、作業計画とスケジューリング、組織・要員計画などを策定する。 演習では、様々なプランニング手法を用い、一連のプロセスとして完成したプロジェクト計画書を作成する。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : プロジェクトマネジメント概説 プロジェクトとは何か、プロジェクトマネジメントとは何かを学習します。また、プロジェクトマネジメントの基礎となるPMBOKについて学びます。	第1回～第15回 毎回の学習テーマをインターネットや文献を通じて調べ、予習を行う。
第 2 週 : プロジェクト計画 システム開発プロジェクトで行う計画活動を学習します。どのような活動があり、何が必要かを実例を通じてわかりやすく習得します。	
第 3 週 : プロジェクト範囲と活動計画 スコープマネジメントとは何かを学び、プロジェクトの範囲の決定方法や活動計画手順を学習します。	
第 4 週 : マスタースケジュール策定 プロジェクトの前提となるマスタースケジュールの策定方法を学習します。またその意義と重要性を学びます。	
第 5 週 :	

演習 1 生活に身近な題材を通じて、プロジェクトマネジメントの演習を行います。	
第 6 週 : プロジェクトの品質管理 プロジェクトの3要素（QCD）の中の品質管理について学習します。またその意義と重要性を学びます。	
第 7 週 : プロジェクトの予算（コスト）管理 プロジェクトの3要素（QCD）の中のコスト管理について学習します。またその意義と重要性を学びます。	
第 8 週 : 進捗と日程の管理 プロジェクトの3要素（QCD）の中の日程管理について学習します。またその意義と重要性を学びます。	
第 9 週 : リソース（人的資源）管理 システム開発プロジェクトには欠かせない人的資源の管理を学習します。	
第10週 : 契約管理 プロジェクトを実行する場合に必要になる契約締結のプロセスについて学習します。また、契約段階で注意すべきことを実例を通じて習得します。	
第11週 : 演習 2 システム開発プロジェクトの題材を通じて、プロジェクトマネジメントの演習を行います。	
第12週 : リスクの予測と管理 プロジェクトの中で起こりうるリスク（不確実性）を予測し、損失を最低限に抑えるのに有効な手段や手法を学習します。	
第13週 : プロジェクトの分析と管理手法 プロジェクトマネジメントの分析や管理ために開発された様々な手法を学習します。また、その意義や有効性を学びます。	
第14週 : プロジェクトの成功と失敗（事例学習） プロジェクトの成功に必要なものは何かを習得するために、成功事例と失敗事例を分析し、研究及び考察を行います。	
第15週 : 演習 3 各自で選択したプロジェクトの題材を通じて、プロジェクトマネジメントの演習を行います。	
第16週 : 期末試験 期末試験 試験時間は80分で、第1回～第15回の授業内容の試験を行います。	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	プロジェクトの管理手法への関心を強く持つこと

【知識・理解】	プロジェクトマネジメント手法の世界標準であるPMBOKに関する知識を修得すること
【技能・表現・コミュニケーション】	プロジェクトマネジメントの手法を自らの生活や社会活動に置き換えて適応できること
【思考・判断・創造】	与えられたケースに即して実際のプロジェクトを企画できること

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	40点			
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	20点	10点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	講義を通じて獲得した知識を活用して、自分なりに適応した思考や企画を持てるかを見る。
発表・その他（無形成果）	